

2020年度（第6期）
里山笑楽校活動報告書

1. 活動の目的

里山笑楽校の目的は、都市と農村、上流域と下流域の交流によって経済と環境の両面において持続可能な地域モデルを創り上げる事である。山王寺棚田は、斐伊川水系の上流域に位置し簸川平野、宍道湖、中海の環境に影響を与えていた。山王寺棚田をモデル地域として、下流域の都市住民に棚田保全活動に参加してもらう事で耕作放棄を減らし、地域に賑わい創りだす。そして、農薬・化学肥料を使わない農業を実施する事で宍道湖・中海の環境保全を目指す。後は難しいことを考えない。基本は「笑って・楽しく・学ぶ」ことである。

2. 活動の実施状況

1) 出雲國まこもプロジェクトを継続（持続可能な地域モデル）

本プロジェクトは「まこも」栽培と六次産業化を通じて以下の事を目指す。

- ①休耕田を活用して「人と自然が共生できる環境づくり」を目指す。
- ②「まこも」を通して「地域の賑わいを創る」を目指す。
- ③「まこも」によって経済的課題を解決

① 人と自然が共生できる環境づくり

今年度も7月に「タガメの里親プロジェクト」第2回目を実施する。新たに追加したビオトープはハスを育てて観光に役立つようにしたい。

② 経済的課題解決

棚田カフェのシェフ募集をする。また、キクイモを六次化することで次の特産品に育てていく。